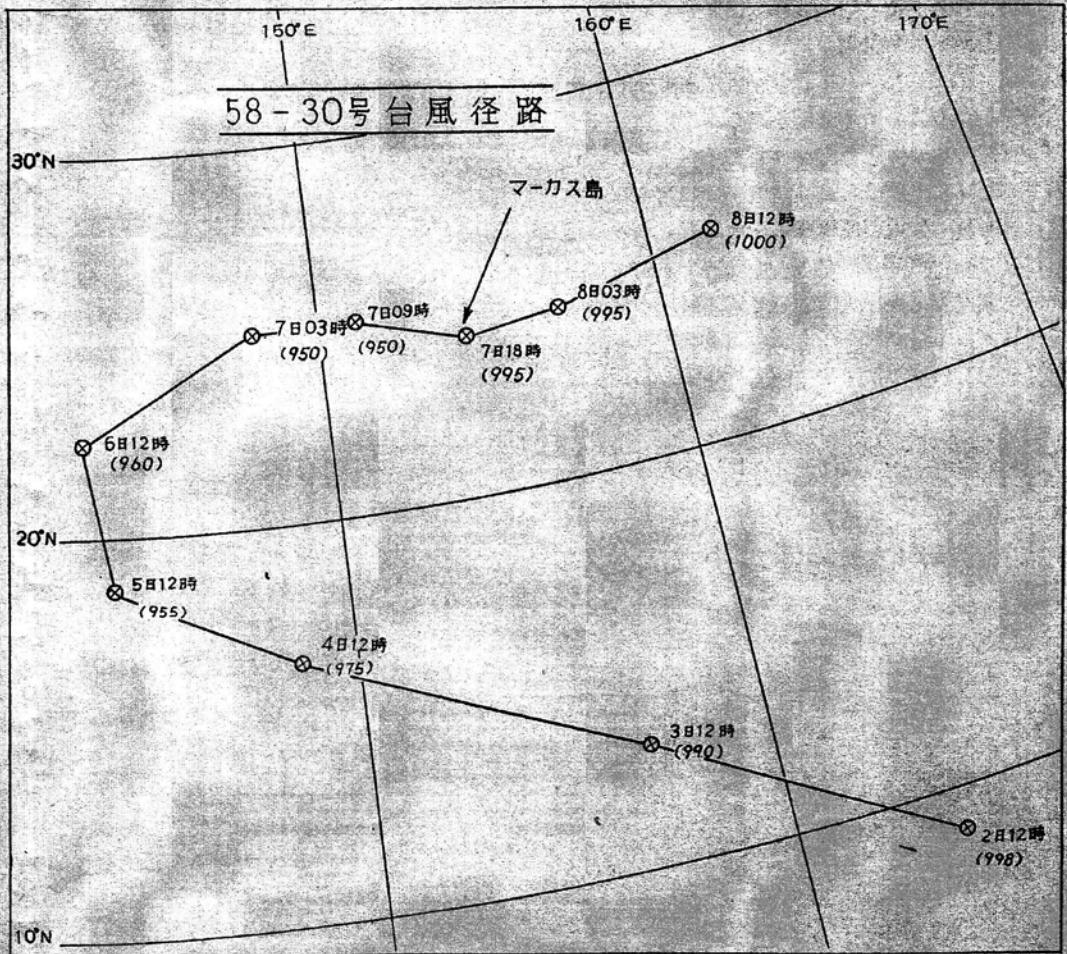


マーカス島で観測した台風眼

大道寺重雄

昭和33年12月7日20時30分に58-30号台風オルガの中心がマーカス島(24°N, 154°E)を通過したが、その時に同島駐在の気象班で台風眼を詳細に観測したので、これを紹介します。なお、台風眼は内地の測候所でも観測した例はありますが、

内地で観測したものは地形の影響が入ってきていますので眼そのものの形がくずれているのが普通です。マーカス島のように最高海拔が7米といった平坦な小島で観測した台風眼は完全であることで貴重なものであり、従ってこれは大洋上の

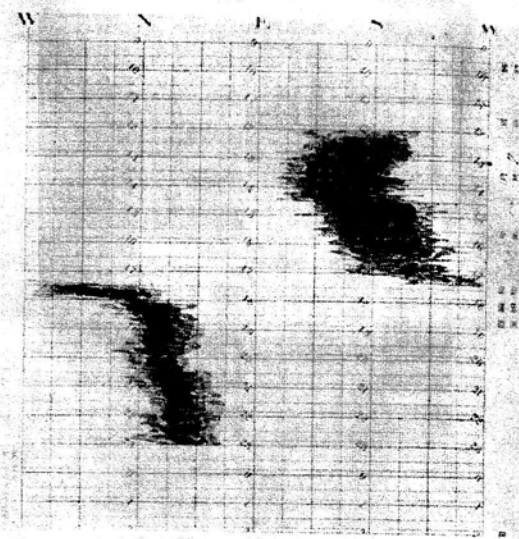


第1図 58-30号台風オルガの経路図

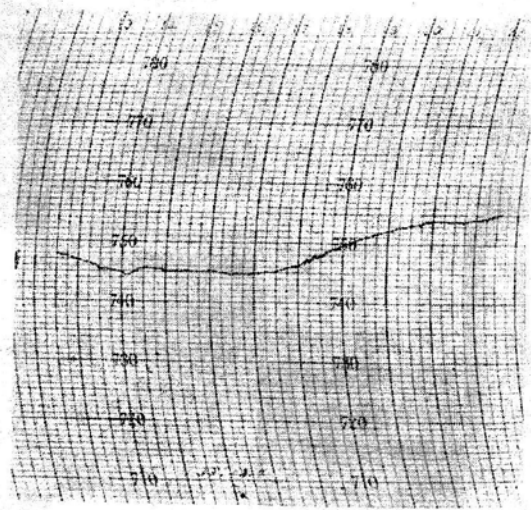
(昭和33年12月)

台風眼とみてもよいので、航海関係者にとってよい参考となるでしょう。

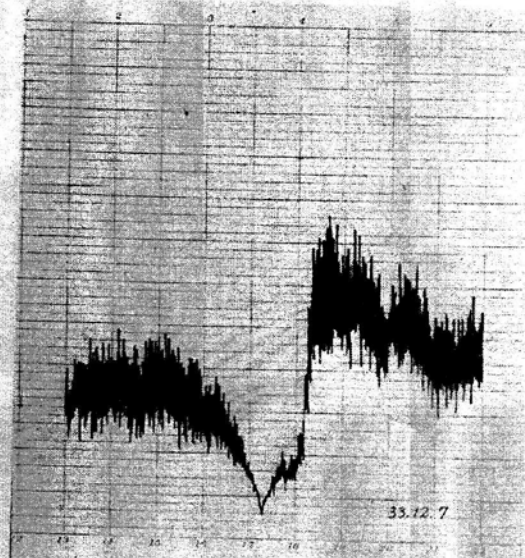
この台風は経路図でわかるようにマークス島の西北西から東に時速 45 軒で通ったので風向、風速は 5 日 18 時から 6 日 8 時まで東 10 米、これから 7 日 15 時まで南 10~15 米になり、次いで南西にvari 18 時から北々東になり、18 時 42 分には瞬間 38.5 米（南風）を観測しました。この風向、風速の記録をみますと従来は洋上の台風眼を中心とした風速の模様は眼の前面と後面は対称つまり同じ風速分布で示されていましたが、この台風ではそれが非対称で前面の最強は 20 米で後面は前にのべたように 38.5 米ですから後面は前面よりも 2 倍も強い風が吹いたことが大切です。これは、この台風がミドウェーとウェーキを結ぶ域に張出したハワイ高気圧と三陸沖から父島方面に張出した高気圧との谷間を移動したのですが、後者の高気圧の勢力が非常に強かったためと解されます。このことから台風の天気図をみるときは台風の後面の高気圧に十分注意しなければいけません。風向は眼のところを南→南西→北西→北→北々東と僅か一時間の間に 220 度も変化しています。これからみても眼の附近での操船が如何に難かしいものかということがよくわかりま



第 3 図 自記風向計の記録

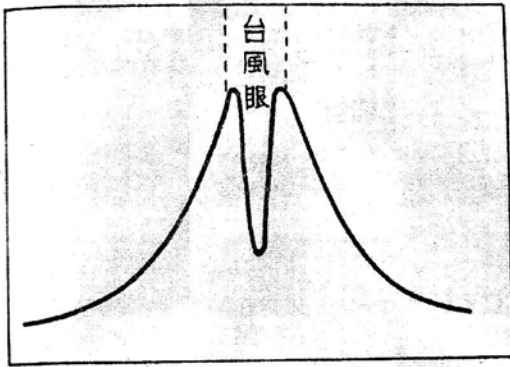


第 4 図 自記気圧計の記録



第 2 図 ダイブズ自記風圧計の記録

す。
次に、台風の中心が接近するに連れて気圧は漏斗状に急降下をするというのが大体の常識になっており、この観念で船では台風対策をするのが建前なのですが、この台風では気圧の記録でわかるように、前に述べた、いわゆる台風の気圧降下の特徴が全然表われなかったことです。この例は私どもも全く意外というほかに言葉がない有様です。従って、この場合にもし船長が常識どおりに気圧計の示度だけに頼っておったとすると台風眼



中心巨離と風速の模型

第5図 模式的に示した台風中心距離と風速

うに、この間は風速は3米/秒で、青空になり星がみられました。この直径は速度と気圧、風向、風速の変化などから推定すると38 軒位です。気温と湿度の変化は大型の自記器械がなかったので詳細はわかりませんが毎時観測の結果からみますと気温・湿度ともに眼の内では僅かながら高くなっています。これと観測者の体験では蒸暑かったということから眼内は、まわりよりも高温、多湿ということができるかと思います。

種別	時別	14	15	16	17	18	19	20
気温(C°)		25.9	25.9	25.6	26.4	26.1	22.4	22.5
湿度(%)		83	82	86	92	94	92	86
蒸気圧(mb)		27.9	27.4	28.3	31.8	32.0	24.8	23.4

(海洋気象部海務課)

にまきこまれるのもわからず大変なことになるでしょう。

台風眼のなかの天気は色々の本に書いてあるよ

報 告

本年漁期を中心にした北洋(鮭鱒)漁場の気象

齋 藤 充, 佐 谷 昭

昭和34年5月15日函館出港約2カ月北洋漁場にて気象の子報作業を行い宮島丸は7月26日鹿島丸は7月28日それぞれ函館に帰港した両船団の観測をもとに今年の北洋の気象の概要を報告し合せて北洋の気象について一般的ののべたいと思う。

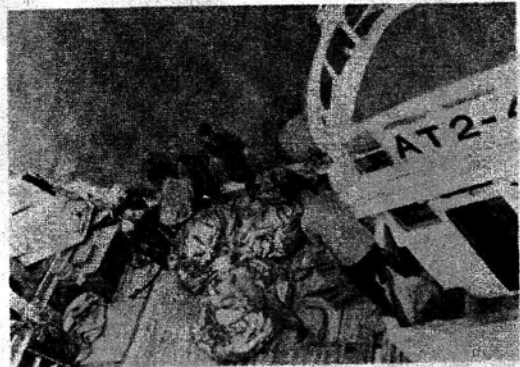
1. 天気経過と特徴

5 月

5月下旬の特徴 (L: 低気圧, H: 高気圧, 以下これにならう。)

Lが北方, 南方, 北方と交互に通過し南方からのものは175°E~178°Eの間を北上した。これを32, 33年度と比較すると32年度は171°E~173°Eの間を北上し今年より5°西側を33年度は165°E~168°Eの間で今年より10°西側を北上して居り, 今年はLの通路がもっとも東偏していた。この結果170°E以西は北西の風が多く弱い方だったが以東は北西の吹きかえしの風

がやや強く、又Lの接近時は東方に優勢なHが



独 航 船